



**がんばれ高田 負けるな高田  
できる できる できる!**

【校訓】

**自主・協力・創造**

文責 校長 大串 久隆

師走に入り、温かかったり寒くなったりしていますが、保護者の皆様は、体調を崩されていませんか。12月には、生徒会役員選挙や人権集会、そして株主総会が行われ、怒濤のような学期末でした。今回は、12月の行事と共に、冬休みに向けて、生徒たちにつけてほしい力や家庭での生活における願い事をお伝えしたいと思います。



3年生作 正面掲示ポスター

## 人権学習「ダイレクトトレード」を通して、人権について考える。(12/7)

今年度の人権集会では、ダイレクトトレードという流通方式とその背景にある人権意識について学習しました。生産者が美味しくて品質の良いものを作り、そのためにかけたコストや手間に対して相応の対価を支払う。当然のことと思われるこの取組について、カリオモンズコーヒーの伊藤寛之さんに、講話をしていただきました。

講話では、ダイレクトトレードを行おうと思ったきっかけとともに、実際にダイレクトトレードを行うまでの信頼関係や業務形態づくりの過程、そして、現地の人と、責任や連帯を伴った対等の関係づくりのお話を聞きました。

生徒たちの感想では、「安い物やお得感ばかりを重視してきた今までの消費についての考え方を、これからは、その品物の流通の仕組みやコストなどにも目を向けて、『適切な値段か』『どのような商品なのか』を吟味してお金を使いたい」というような意見が多く出されていました。

SDGs(持続可能な17の開発目標)には、1番:貧困をなくそう、2番:飢餓を無くそう、3番:すべての人に健康と福祉を、4番:質の高い教育をみんなに、10番:人や国の不平等を無くそう。など、貧富の差を無くしていくことの大切さを掲げた項目がたくさんあります。そして、その解決のために、目標の17番目には、「パートナーシップで目標を達成しよう。」とあります。世界の国々が共にパートナーシップを持つことが重要であり、お互いが対等の立場でともに生活していくこと、まさに、今回のダイレクトトレードは、その取組の一つだということ、多くの生徒たちが実感したのではないかと思います。この学びを、「高献」の活動と共に高めていきたいと思っています。



1-2作 正面掲示ポスター

## 株主総会、沢山のご来場と株券購入、ありがとうございました。(12/8)

株主総会では、第四代高献社員(現2年生)による、令和5年度の活動報告や収支決算報告が行われ、第五代高献社員(現1年生)による、次年度に向けた活動方針や社員としての意気込みが示されました。

四代目の活動では、「地域に希望と幸せを」というスローガンのもとプロに学ぶ実践報告が行われました。株式や流通についての学習や印刷会社の方からのアドバイスを活かしながら、飲食店の皆さんとコラボレーションをして、レシピづくりをしたことなど、多くの学びを発表しました。また、テーマソングの独唱やダンス、プロモーションビデオの作成などはつらつと発表し、見ている人を感動させる演出が満載でした。

五代目の会社説明会では、生徒たちが共に協力して活動していく意気込みが、明るく楽しく、表現力豊かに紹介され、会場全体が笑いと拍手に包まれる総会となりました。

株券の販売では、当日券だけでも昨年度を上回っており、後日の購入券を合わせるとさらに多くの活動資金を得られるものと思います。社員一同、これまで以上に頑張るとお思いますので、どうか、株式会社高献の取組について、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。総会当日に、沢山ご来場くださり、本当にありがとうございました。



## メディア講演会「生活習慣の重要性について」(12/12)

「生活習慣の重要性について」というテーマで、カラダとココロのコンディショニング施設「サンクス」の代表 杉野伸治様に講話をしていただきました。

杉野先生は、全日本バレーボール男子(U20)のメディカルトレーナーや日本オリンピック医科学スタッフの経験があり、講話の中では、(1)良い生活習慣の大切さ。(2)「自立」の大切さ。(3)目標を持つこととその実現のための実践の大切さ。などについて、お話しいただきました。

講話の中では、メディアの現状や危険性などに一切触れられませんでした。1つだけ強調されたのは、メディアの活用が3時間を越える人は、自己の成長において深刻なダメージを受ける。ということでした。

講話の大半でお話しいただいたのは、

- (1)良い生活習慣の大切さ・・・①睡眠を取る②朝食を取る③やるべきことは、優先してすぐやること
- (2)「自立」の大切さ・・・①朝、自分で起きているか?②整理整頓はできているか?③親や家族に八つ当たりをしていないか?
- (3)目標を持つこととその実現のための実践の大切さ。・・・①心が変われば行動が変わる。②何となくではなく、科学的に知って、納得して行動する。③メディアの内容は、ただの情報であり、「知識」でも「技能」でもなく、ましてや「決して自分の能力」ではない。 というようなことでした。

杉野先生のお話は、科学的な根拠が明確にあり、遠慮無く、ズバズバと言い切るその姿勢に、生徒全員が引き込まれていました。そして、その話を聞いているうちに、自然に次のようなことが頭に浮かんできました。それは、「1日という限られた大切な時間を『メディア』に裂いている場合ではない。もっとやるべき大切なことがある。」ということです。体や心、頭を有効に活用し、しっかりと休養を取りながら自分を成長させる人は、自己という土台がしっかりできる。メディアは絶対悪ではなく、「知らないことを知る」「速く、深く、正確に学ぶ」ということでは、とても有効である。だから、生徒たちには、そのメディアの利点を活かしながら、より良く、そして、自立心をしっかり持った大人へと成長してほしい。そのような願いが込められた講話でした。

## 充実した冬休みに

冬休みには、お正月があり、年を終えて、新しい年を迎える大きな節目を、家族とともに過ごします。中学の3年間や高校の3年間は、あっという間に過ぎるうえに、気がつくともどもたちは、親元から離れるような年代になってしまいます。早い場合は、高校生の時から親元を離れる場合もあります。そう考えると、中学生の時の家族での生活は、とても大切なものとなります。また、ここ数年、コロナ禍での生活で、家族や親類などとも会えなかったり、一緒に過ごすこともできなかつたりしたことと思います。そういった意味でも、家族や親類縁者が集って、お互いの繋がりを高め合うことはとても大切だと思います。

生徒たちには、家族や身内の方々への感謝の思いを高める機会にしてほしいです。また、コロナ禍と同時並行で始まったタブレットを活用した学習ですが、これは、学びの道具としてICTを有効に活用するとともに、各自が主体的に学びに向かうこと、を重視しています。冬休み明けには、ながよ検定が、2月には学年末テストが控えています。検定に向けた学習を計画的に行ったり、この1年間の学習をAIドリルで計画的に復習して、学年末テストに備えるなど、自分で自分を高める長期休業にしてほしいです。

さて、3年生にとって、この冬休みは、新たな道に進むための追い上げと最終調整の時期となります。これまで積み上げてきた知識や技能、思考力・判断力・表現力をいかに発揮できるか、経験と学びを結集して受験に臨んでほしいと思います。

## 「春風や闘志抱きて丘に立つ」

この初春を、新たなスタートのための決意の時と定め、悔いのない取組を行ってください。

## 頑張れ!3年生!!

あなたなら あなたたちなら できる できる できる

